pal
place amie liberte

no.520
GAKUEN COMMUNICATION PAPER PAL
学園新聞［パル］
2011.1.25 tue

pick-up contents on this issue

p.2〜3 campus
2010年 8月〜12月までを振り返って

p.5 campus
センターの取り組み紹介

p.6〜7 information
平成22年度 情報の公表

p.8 schedule
1〜3月の主な行事予定

p.4 circle
学生たちが多彩に活躍
クラブ・サークル活動報告

大学・短大の明日に向けて

相内眞子大学学長、齊藤徹短期大学部学長の2名体制で、さらなる進化に向けた取組が加速しています。

Be Positive! 前向きに！ひたむきに！

北翔大学
学長 相内 眞子

本年が皆さまにとって素晴らしい1年となりますようお祈り申し上げます。

2011年は、ビジョンとミッション〈使命〉をさらに明確に打ち出し、多くの方々に愛され、支持される大学づくりをめざしてまいります。

私が昨年2月に学長に就任し、最初に着手したことは、「北翔大学未来プロジェクト」の立ち上げです。これは大学の10年後を構想する取り組みで、若手教職員を中心に3つのワーキンググループ（以下WG）から成っています。「学群・学類」と「主専攻・副専攻」の2つのWGでは、〝定められた学部・学科に入学して1つの専門分野を追求する〟という従来型の履修形態の見直しを検討しています。本学ではすでに他学部・他学科履修を導入していますが、学びの自由度・満足度がより高く、本学の教育資源を有効活用できる仕組みについて調査や議論を重ねています。

そしてもう1つが「奇想天外・夢が広がるWG」です。現在の日本社会には閉塞感が漂っており、夢や希望を持ちにくい状況にあります。そんな時代だからこそ、日々の営みの中に新たな喜びを発見できるポジティブな生き方が必要です。教職員の皆さんには、こうした新発見を手掛りに、大学の未来に関わる夢を存分に語っていただきたいと考え、このWGを設けました。

他方、経営側でも「学校法人浅井学園の長期ビジョン」や「新中期計画」を策定する委員会が始動しました。このことから、昨年は、教学側と経営側が学園の未来を考え行動するために、相互理解を深め一体となって取り組む良い契機となりました。

教員と職員は、目的地へ向かうクルマの両輪です。FDやSD（スタッフ・デベロップメント＝職員の能力開発）に力を入れ、両者の話し合いを促しながら、各アイデアに具体性を持たせていくことが、本年、私がすべき一番の仕事だと感じています。

在学生や教員の活躍を伝えるニュースは、本紙のほか本学ホームページでも閲覧できますので、保護者の方や卒業生の皆さんには、知と技の躍動をぜひご覧いただきたいと思います。私は、元気と勇気を多くの方々と共有しながら、力強く前進したいと願っています。

躍動

北翔大学短期大学部
学長 齊藤 徹

皆さま、本年もよろしくお願いいたします。

私が短期大学部学長に就任した昨年2月は、短大卒業生の桧野真奈美さん（ボブスレー）と学習コーチング学科在学中の村田愛里咲さん（モーグル）が出場したバンクーバー五輪の開催時期でした。大教室のスクリーンの前で大勢の学生諸君と遠藤前学長、そして相内大学学長らと熱く応援できたことが大変うれしい記憶となっています。

そのほか学内外の多くの場面で学生の活躍する姿や笑顔に触れ、改めて躍動する学び舎を実感しているところです。

また、学長就任後は、人間総合学科とこども学科の各学科会議に参加しています。その場で改めて感じるのは、教員一人ひとりが本当に熱意を持って教育にあたっているということです。素晴らしい教員の力を結集し、「魅力ある教育内容を提供する存在価値の高い短期大学部」へ飛躍させたいと考えています。そのために、短大の魅力アップを目指す「短大プロジェクト」会議などを通して、密度の高い教職員間のコミュニケーションを一層重視してまいります。

各学科の取り組みに目を向けますと、人間総合学科では来年度より「ユニット履修制度」を導入します。同学科の多岐にわたる学習分野を一層わかりやすく明示することで、学生は深く専門分野を集中的に学ぶことも、興味のある複数分野を学ぶことも、これまで以上に選択しやすくなります。また、こども学科では、学業と仕事などが両立しやすくなる「長期履修制度」が始まります。こうした新たな取り組みも、熱意ある教員たちの議論から生まれてきました。

短期大学部では開学以来、幅広い教養と専門知識・技術を身につけ、地域社会に貢献できる人間性豊かな人材を数多く輩出してきました。来年度は、そのような「北翔カラー」を持った卒業生から在学生に語っていただく講話会の実施にも、同窓会の協力を得ながら、さらに積極的に取り組んでまいります。いつまでも北翔カラーが受け継がれ、一層輝きを増しながら地域へ、世界へと広がっていくことを期待しています。

北翔大学 寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により就学の継続が困難な学生が増加しており、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。

ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。

ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

［募集期間］平成26年6月まで（常時受け入れさせていただきます）

お問い合わせは企画部企画広報課まで
詳細は本学ホームページ
http://www.hokusho-u.ac.jpをご覧ください。

3.12（土）11:00 受付スタート オープンキャンパス

春のオープンキャンパス開催のご案内

3月12日（土）に、今年度最後の第6回オープンキャンパスが開催されます。

テーマは、「好きを見つける北翔体験」で、学びの分野体験や無料ランチ体験など多彩なイベントが目白押しの内容となっております。

主に、高校1・2年生を対象としておりますが、ご家族や身の回りの、本学へ興味をお持ちの方へは、奮ってご参加くださるよう、ぜひお声がけをお願いいたします。各地方都市より無料送迎バスも運行いたします。

学生スタッフ・教職員一同、多数のご参加を心よりお待ちしております。

発行人：鈴木弘泰 | 発行所：学校法人浅井学園 | 発行日：2011年1月25日 | 発行部数：5,500部 | お問い合せ先：学校法人浅井学園 北翔大学 企画部 企画広報課 〒069-8511 北海道江別市文京台23番地 tel.011-386-8011（代） fax.011-387-3739

Looking back on the event from

2010年8月～12月までを振り返って

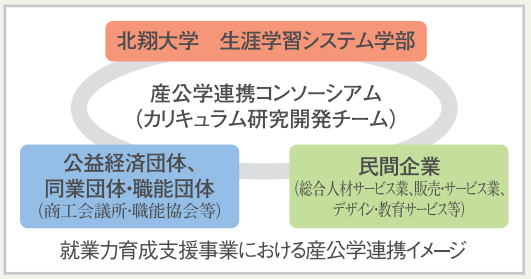
生涯学習システム学部の取り組みが文科省「就業力育成支援事業」に選定！

文部科学省では平成22年度より「大学生の就業力育成支援事業」を開始しました。本事業は、大学内組織の有機的な連携による全学的体制の下、入学から卒業までの間、実学的専門教育を含む体系的な指導を行うことを通して、学生の卒業後の社会的・職業的自立が図られるよう、学生の「就業力」向上を目指す教育改革の取り組みを支援するものです。

9月28日、生涯学習システム学部が「産公学連携による実学融合教育の実践」という名称で申請した取り組みが本事業に選定されました。事業期間は平成22年度～26年度です。申請は全国の大学・短期大学から441件あり、180件が選定されました。道内では17件の申請に対して、本学を含む6件が選定されています。選定事業の年間補助金額の上限は2000万円です。

選定された生涯学習システム学部の取り組みでは、就業力養成のための基礎科目として、社会人基礎力養成科目（社会的自立力養成）および就職基礎力養成科目（職業的自立基礎力養成）を新設します。また、実践力養成のための方策として、世代間連携型インターンシップや課題解決型インターンシップを開発。さらには実演演習を行うデモンストレーションルームを使用した職能教育の展開、ジョブカード様式に準拠したキャリアポートフォリオの開発と既存の学生ポータルサイトとの連動による情報の一元管理などを行います。これらにより、実学的専門知識と実務に則したスキルを合わせ持つ人材、確かな就業力を有する人材を育成していきます。

遂行にあたっては、公的就業支援サービスを行う北海道若年者就職支援センター（ジョブカフェ北海道）および総合人材サービス業の民間企業、商工業者による公益経済団体や同業団体、教育関係機関などと連携し、社会的ニーズを反映した就業能力育成のための教育プログラムを構築していきます。



就業力育成支援事業における産公学連携イメージ

北翔大学の第三者評価を実施

10月7・8日の2日間、北翔大学の第三者評価の実地調査が（財）日本高等教育評価機構によって実施されました。

学校教育法の改正により、各大学・短期大学は、教育研究、組織運営、施設設備等の総合的な状況について、認証評価機関による第三者評価を少なくとも7年に1度受けることになっています。昨年度は（財）短期大学基準協会による評価を短期大学部が受審し、適格と認定されました。

当日は評価員4名と機構担当者2名が来学し、事前提出の資料を基に実地調査が行われました。今後、同機構の大学評価判定委員会において評価結果が決定され、通知される予定です。

道内外5会場で保護者懇談会を開催

9月11・12日に在学生の保護者を対象とした「平成22年度保護者懇談会」を開催しました。11日は帯広、北見、函館、仙台の4会場で、12日は本学を会場として行い、5会場を合わせて226名の保護者の方にご参加いただきました。

懇談会では、最初に大学側からの挨拶、建学の精神・教育の理念などの説明、キャリア支援についての説明を行い、その後の個人面談では学業、学生生活、キャリア支援などの相談もお受けしました。

終了後には、保護者の皆さまにアンケートへのご回答をお願いしました。懇談会開催へのお礼の言葉やキャリア支援の取り組みについて評価する声をいただいた一方で、学年別、学部・学科別の開催など、多くのご要望もいただきました。

アンケートの結果は、2011年度以降の懇談会に向けて参考とさせていただきます。

教職員の学びの場、FD／SD研修会

第6～8回のFD／SD研修会を8・9月に開催しました。

■第6回（8月2日）

学生14名、教員10名、職員6名が参加。ワークショップ形式で、授業改善に向けて本学の良い点と改善すべき点をピックアップしました。良い点として多く挙がったのは、教員と学生の距離が近いこと、改善すべき点は授業の環境整備。各立場から改善への具体的提案がなされました。

■第7回（9月14日）

芸術メディア学科の松澤衛准教授を講師として迎え、「情報収集とプレゼンテーション」と題した研修会を開催。参加者は教員46名、職員2名。日常の資料を基にしたパワーポイントの作成など、内容の濃い学びの機会となりました。

■第8回（9月21日）

㈱コンピュータソフトウェア著作権協会の専務理事・久保田裕氏をお迎えし、「教育機関において注意すべき著作権と情報モラル」と題した講演会を開催。参加者は教員40名、職員12名、非常勤講師6名、他大学教員1名の計59名。参加者からは「講義教材の利用について勉強になった」などの感想が寄せられました。

生涯学習学研究科修士論文中間発表会

大学院生涯学習学研究科の修士論文中間発表会が10月23日に開催されました。

山谷研究科長の挨拶の後、学生たちは1人20分の持ち時間をいっぱいに使って、今まで研究を進めてきた成果や課題を発表していきました。先生からの厳しい質問にも堂々と答えており、研究の深まりを感じました。最後に山谷研究科長より、発表した11名一人ひとりに丁寧な講評があり、閉会しました。

今後は修士論文の完成・提出、口頭試問、最終発表会と続いていきます。現状からさらに研究を積み重ね、大きな成果を出すことが期待されています。

生涯学習システム学部ニュース

芸術メディア学科

芸術メディア学科の研究生、吉田桃子さんの作品が12月5日に開催された「Autodesk Visualization Contest 2010 Awards Ceremony」で、応募160点の中から入選15点の一つに選ばれました。吉田さんは、在学中より3DCGによる作品制作に取り組み、現在はCGによる映像表現を研究しています。今回は「暮れの松琴亭」という作品で入選を果たしました。

学習コーチング学科

第5回学習コーチング研究会が11月27日に行われ、内外から多くの方々にご参加いただきました。今回の主な内容は、小学生と幼稚園児の参加による小学校の外国語活動、園児との造形活動、実際の小学校教員や本学科生の実践発表、講演会でした。また、研究交流会では参加者の活発なご発言があり、教職を目指す学生の意識向上につながりました。毎年、本研究会は学生にとって大変良い学習機会となっています。

人間福祉学部ニュース

平成22年度卒業生研修会

人間福祉学部の卒業生研修会が11月6日に開催されました。記念すべき第10回となった今回の研修会では、エクステンションセンターとの共催講座に加え、初の試みとしてPAL5階を利用した「HOME COMING PARTY」を行いました。

パーティには多くの学部の教員が参加し、卒業生を迎えました。久しぶりの再会を喜び、学生時代の思い出話に花を咲かせる卒業生や、現在の職場における充実した生活を語る卒業生などが見られ、和やかな雰囲気で会が進行しました。さらに北翔大学に関する○×クイズやビンゴゲームなどのイベントも行われ、盛況のうちに終了しました。

Looking back on the event from

2010年8月～12月までを振り返って

みんなで大いに盛り上がった夏の一日

8月1日、「北翔祭」が開催されました。各学科の作品発表や体験コーナーのほか、各センターも「アクアフィットネスで多世代間交流」や教養講座「人が集えば文殊の知恵袋」など、地域の方を対象としたイベントを多数用意。中庭特設ステージでは、学生たちによるライブに加え、「A・F・R・O」らのゲストライブもあり、待ち時間に行列ができたほどの盛況ぶり。札幌吉本お笑いライブでは「SF革命」や「しろっぷ」も登場しました。出店も数多く並び、オープンキャンパスをサポートするサークルPAL・C(パル・シー)の「楽園ベイベー」が、お客さんの人気投票で決まる「出店大賞」を見事獲得。キャンパスが最も沸き立つ1日は、恒例の打ち上げ花火でフィナーレを迎えました。

◆盛況「こどもの国」

こども学科では毎年1年生が中心となり、北翔祭で3つの学科企画に挑戦しています。今回はより多くの子どもたちに参加してもらうため、案内状やポスターなどを作成し、近隣の幼稚園や保育園に呼びかけました。

音楽専修の企画は、1年生のアコーディオン演奏と、2年生のピアノ、合唱、合奏発表。全員が心を一つにして、合奏室に美しいハーモニーを響かせました。来場した音楽専修の先輩たちからも後輩の演奏に大きな拍手が送られました。

美術専修では、保育者として必要な造形表現力を高めるために作成した作品を展覧。ぬり絵や折り紙のコーナーも設けて、来場した子どもたちと一緒に楽しみました。

そして、体育専修は「室内でも遊べる！親子でも遊べる！」を合言葉に遊びを企画。ボーリングや輪投げなど、体を動かす遊びを準備しました。学生は子どもとかかわりながら楽しいひとときを過ごしたようです。また、その姿を見守る保護者の方々の笑顔がとても印象的でした。

防災訓練に地域住民を含む約200名が参加

江別市と本学の合同防災訓練が9月2日、本学カレッジホール・パル棟を中心に実施されました。地域住民も参加する体験型訓練で、参加機関14機関、参加者約200名による大掛かりなものとなりました。

パルホールには応急救護、応急担架作成ブースなどが設けられました。また、屋外には災害対応自動販売機、防火防災物品、給水車、地震体験車、煙体験ドームなどが展示されました。

本学の自衛消防組織による訓練は、大規模地震による建物倒壊と火災発生を想定しています。当日は、負傷者の支持・担架搬送などの救出活動、パトカーの出動、怪我の重症度の判別（トリアージ）、救急車による搬送、パル5階からのハシゴ車による救出、消防車両3台による放水などの訓練が行われました。

大好評の1COIN朝食週間、6回目の開催

健康な体づくりと健康な精神の発達のためには、毎日の規則正しい食生活が欠かせません。本学では、酪農学園大学・短期大学部、札幌学院大学、北海道情報大学と連携し、これまで大好評だった「食生活改善運動（1COIN朝食週間）」を10月26～28日に実施しました。

6回目となる今回も、JA道央と北海道米販売拡大委員会より江別産米「瑞穂のしずく」を提供していただきました。学生たちは、仲間や教職員、地域の方と一緒に食事を楽しんだようです。

写真は10月28日の献立（ゆで鶏と豆腐のおろしソース、じゃが芋チーズ焼き、もち麦ごはん、根菜とお豆のスープ、ヨーグルト、納豆）です。

高校生に大学の研究内容を楽しく紹介

大学の最先端の研究成果を高校生に知ってもらうことを目的とした日本学術振興会の委託事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」が12月11日に本学にて開催されました。

当日は地域の高校生が多数参加し、超スローモーション映像を使ったスポーツ動作の分析や、ハイスピードカメラを使用したスポーツ動作の撮影とプレゼンテーションなどが行われ、終了後は参加者一人ひとりに「未来博士号」の賞状が授与されました。

生涯学習システム学部の山本敬三准教授は、「動作分析の楽しさや、普段大学で行われている研究について、高校生に知ってもらうことができる良い機会。今後もぜひ続けていきたい」と意気込みを語っていました。

着物をリメイクしたファッションショーが大盛況

美深町や名寄市の主婦を中心に設立された「呼布（こぶ）の会」、そして本学芸術メディア学科の学生による「着物リメイクファッションショー」が10月9日、北方圏学術情報センター（ポルト）で開催されました。450名を超える方々にご来場いただき、立ち見も出る大盛況となりました。

学生たちは4月、呼布の会にご指導いただき、着物をよみがえらせるリメイクに挑戦。ファッションショーは、その成果を発表する場となりました。

タンスの中で長年眠っていた着物のリメイクは、ゴミを減らすエコにもつながります。学生たちは、なじみの薄い着物に関する知識や、洋服にリメイクする際の無限の可能性を教えていただき、とても良い経験をすることができました。

避難実験と段ボールハウスで災害を調査研究

北翔大学福祉環境研究グループによる「災害時要援護者の避難計画策定に関する調査研究」が、平成21、22年度江別市大学連携調査研究事業に採択されました。11月27日の避難実験は、本学学生21名（大学院3名、生活福祉学科10名、介護福祉学科2名、芸術メディア学科6名）を要援護者、ボランティアの立場に設定して行われました。実験では、生活福祉学科・齊藤徹先生のゼミ学生たちが研究試作した避難時用の段ボールハウスも試用されました。

気象文化大賞受賞【銅賞】

（財）WNI気象文化創造センターが、気象の実用・実践の振興を目的とした草の根的な気象活動を表彰・助成する「第1回気象文化大賞」において、生涯学習システム学部学習コーチング学科の中山雅茂准教授が銅賞を受賞しました。

中山先生は、「こうした賞をいただき、ありがとうございます。一緒に観測し、学んでいる子どもたちが受賞したと思っています。北海道から日本、アジアにこういう活動を広げていきたい」と今後の意気込みを語りました。

短期大学部ニュース

こども学科に赴任して

短期大学部　こども学科 講師　清水 桂子

春に赴任したばかり…のはずが、気がつけばあっという間に4つ目の季節を迎えています。こども学科の多忙なスケジュールや、目まぐるしく変化する保育情勢の把握。保育のシャワーを浴びるかのように、保育を中心とした多様な情報に囲まれた充実した日々を送ることができました。

学生も、資格、免許取得と卒業に向け、授業、実習、就職へと駆け足でこなします。しかし、時には息が途切れそうになることもあるでしょう。研究室で見せる弱音、懐かしい絵本やおもちゃを手に取りながらの、たわいのない会話や笑い声、保育者になる夢を熱く語る姿。私にとってもホッと癒やされる大事な時間であります。

生涯スポーツ学部ニュース

産学官の連携事業「あかびら・地域まるごと元気アッププログラム」で学生が活躍しています

生涯スポーツ学部は、小樽商科大学、コープさっぽろ、赤平市と産学官連携し、「あかびら・地域まるごと元気アッププログラム」を開始しました。第1弾の「いきいき体力測定会」は8～9月に実施。参加した赤平市在住の高齢者536名は、学生たちの親身な対応に安心して測定に臨んでいました。第2弾は、この測定結果の報告会を兼ねて9月22日に開催した「健康フェア」。学生による体力相談会や軽運動プログラム体験会では、多くの来場者と触れ合う機会を持つことができました。そして、現在は第3弾として「楽生きくらぶ」と命名した運動教室を行っています。参加者には、体力測定の結果別に効果的な3つのプログラムを用意し、健康運動指導士志望の学生たちが指導。みなさん、毎週楽しみに通ってくださっています。

主人公になれる大学

The Results in 2010

Club, Circle and Other Activities

2010 クラブ,サークル,学生達の活躍

陸上競技部

「全日本インカレで17名の選手が躍動」

男子110mハードル
佐藤慎也(健康プランニング3年、左から2人目)

9月10～12日に東京国立陸上競技場にて第79回日本学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。大学陸上競技の最高峰の大会に本学から17名がエントリーし活躍しました。

出場選手は次のとおりです（学科表記なしは3・4年が健康プランニング、1・2年がスポーツ教育）。

○男子110mハードル／佐藤慎也（3年）、森祐輔（4年）
○男子400mリレー／松野友迪（大学院生涯学習研究科1年）、佐藤慎也、小山圭佑（3年）、森祐輔
○男子やり投／濱谷耕大（3年）
○女子100m／奥塚みなみ（3年）、五十嵐友（3年）
○女子200m／奥塚みなみ
○女子400mハードル／岸部昌江（2年）
○女子400mリレー／五十嵐友、奥塚みなみ、山谷有里紗（こども2年）、劔持明那（人間総合1年）
○女子1600mリレー／山谷有里紗、劔持明那、岸部昌江、堀籠梨花（こども1年）
○女子走幅跳／三宅粧子（4年）、平加有梨奈（1年）
○女子棒高跳／下内沙織（2年）。

吹奏楽部

「クリスマスコンサート 会場から大声援」

吹奏楽団の第6回クリスマスコンサートが、12月19日に北方圏学術情報センター（ポルト）で開催されました。演目は「Xmas Swing-in」、「コレクション」や「ディズニー・メドレーⅢ」、歌劇「ヘンゼルとグレーテルより祈りとパントマイム」など。豪華プレゼントが当たるビンゴ大会もあり、エンターテインメント性にあふれた演出に大歓声が送られました。

剣道部

「女子チーム 全国大会で健闘」

北海道予選会（9月19日）で北海道代表の栄冠をつかんだ剣道部女子チームが11月14日、愛知県春日井市で開催された「第29回全日本女子学生剣道優勝大会」に出場しました。1回戦で今大会の優勝チームとなった早稲田大学と対戦し、惜しくも2回戦出場を逃してしまいましたが、非常に健闘した試合内容となりました。

7月の「第44回全日本女子学生剣道選手権大会」出場に次ぐ全国大会出場となり、日ごろの練成の成果が大きく花開いたと言えます。また、11月7日に開催された「第27回北海道女子学生新人戦大会」でも、団体戦の部と個人戦の部の両方で優勝の栄冠を勝ち取ることができ、大きな活躍を見せています。

女子バレーボール部

「カナダ レッドディアカレッジ 遠征報告」

女子バレーボール部は9月14～24日の11日間、国際交流を目的にカナダ・レッドディアカレッジへの遠征を行いました。

レッドディアは、例年の同じ時期と比べても気温が低かったようで、10度前後の毎日でした。滞在中はレッドディアカレッジをはじめ近隣高校とも多くの親善試合を行うことができました。特にレッドディアカレッジとの親善試合では、学長をはじめ多くの観客が見守る中で試合が行われました。また、試合以外にも市内研修をさせていただくなど、多くの方にとても歓迎していただきました。バンクーバーに移動後もリッチモンドオーバル（五輪スケート会場）にて、地元の高校生と交流しました。

このカナダ遠征は、同部の学生たちにとって、今後の国内でのさまざまな大会に向け、チーム力アップにつながる貴重な経験となったはずです。

エクステンションセンターから

「異文化理解フォーラムで学生たちが海外体験を紹介」

エクステンションセンターでは10月19日、初の試みとして「異文化理解フォーラム」を開催。学生自身の海外体験の発表により、学生たちの国際感覚と異文化理解の修得に役立ててもらうための企画で、会場となった本学822教室には約200人の学生や教職員が集まりました。

青年海外協力隊としてバングラデシュの首都ダッカで2年間を過ごした茂内由香利さん（こども学科1年）は当地の民族衣装を身につけ、PCインストラクターとして活動した日々を紹介。また、デンマークで2カ月間の短期留学をした森川自由理さん（芸術メディア学科4年）は、インターナショナル・ピープルズ・カレッジで年齢・国籍を越えて世界各国の人々と交流した経験を語りました。

両者とも豊富な映像を交えた内容の濃いプレゼンテーションを披露し、2つの国がとても身近に感じられるような、大変興味深いものとなりました。

「芸術メディア学科の2名が道展で入選！」

第85回道展において、本学の芸術メディア学科から学生2名が見事入選を果たしました。また、卒業生も3名入選しました。

道展は、その名のとおり北海道を代表する歴史ある美術公募展覧会で、入選するためには非常に高いレベルの表現力が問われます。作品は10月20日～11月7日に札幌市民ギャラリーで展示され、11月23日からは釧路、帯広、北見の順で巡回展も開催されました。

山本 由紀菜さん（芸術メディア学科3年）
岩見沢緑陵高校出身
「迫る迫る迫る」 F100号 油彩

能和 暁さん（芸術メディア学科3年）
小樽工業高校出身
「繋がるの求心性」
1720×1720
バイアスエコパネル、白亜地、油彩、アクリル

同窓会から

淑萃会準会員（在学生）支援報告

本会は、同窓会でありながら現学生を準会員と定め、積極的に支援しています。本年度からは「淑萃会スポーツ・文化活動振興会」を立ち上げました。同窓会員からの寄付を募り、育ててもらった感謝の気持ちで母校を支え、後輩のために役立ててほしいと活動を進めています。

支援状況をここに報告させていただくとともに、ご意見、ご質問を拝聴し、今後の参考にしたいと思っています。これからも淑萃会は頼れる先輩をめざし、支援していくことをお約束します。

項　目	21年度	22年度(11月現在)
部活・サークル支援	2,000,000	2,000,000
オープンキャンパス援助	1,484,630	1,139,571
各学部・学科卒業生祝賀会	824,590	655,952
学生表彰者へのお祝	80,000	
留学生食堂プリペイドカード援助	320,000	170,000
国際大会出場遠征援助	1,178,810	590,000
教員採用試験対策支援	51,120	222,618
日本画講習会	53,964	
大学祭支援	150,000	150,000
ボブスレープッシュレーン寄贈	5,371,920	
ボブスレープッシュレーン落成式	122,250	
外部コーチ料	450,000	900,000
バンクーバーオリンピック関係	198,472	463,260
卒後教育支援	365,920	315,200
「hug」リニューアル		1,102,500

ボランティア交流室オープン

エクステンションセンターは、学生のボランティア活動を支援しています。平成22年度からは、その一環としてセンター事務室向かい側にボランティア交流室をオープンし、学生への開放を始めました。センターへの募集依頼情報ファイルを配置してあり、随時情報に触れられます。

11月には、ボランティアサイトの検索や募集依頼の来ている施設等について調べることができるように、利用者がフリーに使用できるパソコンとプリンターも設置し、その利便性の向上に努めています。

ボランティアは、様々な人との出会いや社会活動の一端に触れる機会となり、大変意義深い活動です。是非、ボランティア交流室を積極的に利用してください。

Northern Regions Academic Information Center (PORTO)

北方圏学術情報センター PORTO研究の広がり

北方圏学術情報センター長
生涯学習システム学部　教授　菅原 克弘

北方圏学術情報センターPORTO（ポルト）は、平成13年度文部科学省「学術フロンティア推進事業」により設立され、5年間の総合的研究後も札幌市中央区にある同名の研究施設を拠点に、北方圏における生活文化・福祉の向上を目的として研究を行っています。現在は14の研究グループによる共同研究プロジェクトと生活福祉研究部、生涯学習研究部3部門において、学内外の研究員総勢98名が活動しています。

本施設は研究室のほか、ギャラリーや多目的ホール、大中小の会議室、ユニバーサルデザインのモデルルームなどを兼ね備え、多様な研究活動をサポートすると同時に、その成果を広く地域住民に披露することが可能となっています。

研究成果の発表として多くの市民講座を開催しており、昨年度はその中の一つ「シニアのための音楽療法講座」が札幌市保健福祉局の介護予防事業として取り上げられました。今年度も毎月1回継続実施しており、地域住民の健康維持活動に貢献しています。

また、各施設を活用した学生の体験型学習や展覧会、演劇、演奏会、ファッションショーなどを実施。芸術全般の多様な人材育成や、地域における生涯学習支援者育成の可能性を探るなど、具体的な研究が広がっています。今後も共同研究プロジェクトをはじめ、両研究部の幅広い観点から研究活動に取り組んでいきます。

Northern Regions Lifelong Sports Research Center (SPOR)

北方圏生涯スポーツ研究センター SPORでの研究活動

北方圏生涯スポーツ研究センター長
生涯スポーツ学部　准教授　小田 史郎

北方圏生涯スポーツ研究センターSPOR（スポル）では、厳しい気候条件を有する北方圏住民のスポーツ活動を推進する方策について、実践的な研究を行っています。北翔大学内に併設された同名の研究施設を拠点に、学外を含め37名の研究員が活動しています。

研究員の専門は体育学、健康科学、心理学、医学、生理学、社会学など多岐にわたっており、スポーツ活動推進のための方策を多角的に追究できます。歴史はまだ浅いですが、これまでに多くの研究成果を挙げてきました。中には世界的に高い評価を受けたものも少なくありません。

また、平成19年度には総合型地域スポーツクラブ「スポルクラブ」を設立。地域のスポーツ振興に大きく貢献できただけでなく、クラブでの活動そのものを研究対象として、その成果をフィードバックした質の高いプログラムを地域住民に提供しています。

特筆すべきは、これらの研究活動が教育活動と結びついている点です。学生が指導者として行うプログラムもあり、彼らは在学中に豊富な実践力を身につけることができます。競技者育成もスポル研究の大きな柱の1つ。ウィンタースポーツを中心に多彩な競技の選手がスポルでトレーニングを積み、充実したサポートを受けながら、国内外の大会で活躍しています。

スポル研究では現在、北海道全域におけるスポーツ社会振興をテーマに、本センターを拠点としたスポーツネットワークの形成をめざしています。地域に根付いた活動を展開しながらも、世界の北方圏地域に貢献するというグローバルな視点を持ち、研究活動を進めてまいります。

Career Assitance center

喜び、悔しさを共有し合える キャリア支援センター

キャリア支援センター長
短期大学部　教授　田口 智子

キャリア支援センターでは、学生のみなさんの就職活動支援や就職相談をはじめ、履歴書の書き方、面接の仕方などの個別指導を行っています。

毎日センターに訪れては自分の気持ちを確かめている学生、何度も書き直した履歴書を手に「明日企業に提出します！」と期待感あふれる表情の学生、「内定もらいました！」と満面の笑顔の学生……日々、さまざまなドラマが展開されています。何をしていいのかわからない、不採用通知を連続で受けて一歩前に踏み出す力を失ってしまった……そのような状況にも、センターの職員たちは親切に対応しています。

また、毎年インターンシップを実施しており、昨年は夏季休暇中に大学2・3年生を合わせて15名が参加しました。事前指導会は7月に実施。インターンシップ中の心得やビジネスマナーなどを学びました。さらに10月9日には、インターンシップ報告会を開催しました。インターンシップに参加する理由はさまざまです。将来就職したい業界を知ることが目的の人、自分に合った仕事が何かを見つけたいと考えている人……それぞれの思いを胸に挑んだインターンシップの成果を、学生たちが堂々と発表しました。中にはより具体的に内容を理解してもらうために配布資料を準備して報告する学生などもいて、工夫を凝らしたプレゼンテーションが印象的でした。個別成果報告が終わった後には、グループワークが行われ、自らの体験を踏まえて課題に取り組んでいました。各グループの課題発表と活発な質疑応答によって、インターンシップ報告会は終了しました。

4月、9月の学期の節目ごとに開催される就職ガイダンスをはじめ、日々の就職相談、学んだ知識・技能を活かす企業実習の機会など、キャリア支援センターは、学生のみなさんの就職活動を全面的に支援します。ぜひ、気軽に立ち寄ってください！ そして、共に喜びを分かち合いましょう！

北海道ドレスメーカー学院　学生の活躍

71st DOREME dé MODE COLLECTION 2010 ～collage～創造的進化　12.3fri & 4sat

ドレメ最大のイベント「ドレメ・デ・モードコレクション」が今年も、たくさんの来場者を迎え、2日間の公演が無事終了しました。企画・演出・モデルなど全てを学生達が行い、71年目を迎えた今年は、新たな一歩を踏み出すと言う意味からテーマを「コラージュ～創造的進化～」として学生一人一人の個性を重ね、新たな未来へ進化していく姿を表現したコレクションとなりました。作品総数87点の個性溢れる作品は観客を魅了しました。

☆学校で作品を間近でご覧いただけます。是非ドレメにお越しください!☆

北海道立近代美術館　作品展示&コレクション開催

学生作品展示& ウェディングコレクション開催

【カラー・パワー!色って不思議展!!】
学生が制作したウェディングドレスやキッズファッションを展示。

開催期間
2010年11月19日(金)～2011年1月23日(日)

【ウェディングコレクション開催】
ドレメ・デ・モード・コレクションで発表した9点の作品を特別イベントとして発表。

日本最大クラスのファッションコンペ

JFAファーデザイン コンテスト 2010-11

4年連続入選

応募総数2,188点／20名

ファッションデザイン科2年の谷浦志緒理さんがデザインした作品が見事、一次審査を通過し、東京で開催された最終実物審査会に出場しました。惜しくも入賞は逃したものの全国コンテスト入選という大きな結果を出しました。

北翔大学

平成22年度 情報の公表

学校教育法施行規則等の一部改正により、平成23年4月より「教育研究上の基礎的な情報」と「修学上の情報等」の公表が新たに義務化されることとなりました。
今後は本学ホームページを活用し、より一層内容を充実させていく予定です。

I.平成22年度の「教育研究上の基礎的な情報」について

1.学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的

○大学院（研究科ごと）

研究科名	教育研究上の目的
人間福祉学研究科	人々の生活に根ざした援助理論や方法を探求し、社会福祉・心理臨床の現場や行政・企業などからの要請に積極的に対応できる、21世紀を担うにふさわしい指導者的人材の育成を目指します。
生涯学習学研究科	人々の生涯学習を支援し、心身の健康増進を図り、生きがいのある人生を創造するといった社会的要請に応え、教育、心理学、健康スポー ツ、芸術などの幅広い分野の人間科学的な素養を持ち、生涯学習の振興に関わる高度な学識と指導力を身につけた専門家の育成。

○大学院（専攻ごと）

専攻名	教育研究上の目的
人間福祉学専攻	新たな「福祉のまちづくり」における高齢者福祉、児童福祉、障がい者福祉、地域福祉、福祉環境などの政策制度等について、幅広く指導的な対応ができる人材の育成を目的とする。
臨床心理学専攻	学校、病院や社会福祉施設をはじめとする各種臨床現場で、他の専門職と十分な連携を図りながら心理臨床活動に従事できる人材の育成を目的とする。
生涯学習学専攻	地域における生涯学習を振興することのできる資質・能力を身につけた研究者・上級職業人の育成を目的とする。

○大学（学部ごと）

学部名	教育研究上の目的
人間福祉学部	地域と共に歩み、支援を必要とする人たちの思いを的確に捉え、課題を解決できる専門的技能や、多様な価値観を受容できる包容力、人間の尊厳や人権、社会的公正へのゆるぎない信念を兼ね備えた人材の育成を目指します。
生涯学習システム学部	人々が生涯にわたり、生活や職業、社会的活動や趣味などに関する能力や資質を向上させるために主体的に学び続けることを支援する生涯学習支援者を養成します。
生涯スポーツ学部	スポーツや健康に関する理論や実践について探求し、主体的・活動的・健康的な生き方を実践・支援できる人材を育成し、生涯にわたってスポーツに親しむことができる健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築に貢献することを教育目標として、実践力のある人間性豊かな生涯スポーツのスペシャリストを育成します。

○大学（学科ごと）

学部名	学科名	教育研究上の目的
人間福祉学部	地域福祉学科	地域福祉理論と介護福祉理論を基盤として在宅や施設など地域における福祉実践を学び、社会福祉士及び介護福祉士における知識・技術・倫理に基づき、人々の生活の質の向上及び地域福祉の推進を担う人材の育成を目的とする。
	医療福祉学科	社会福祉学を基礎に学際的な知見を深め、疾病や障害によって生ずる様々な生活課題を多面的、科学的に理解し、その解決や自立生活を支援する人材（社会福祉士・精神保健福祉士）の育成を目的とする。
	福祉心理学科	社会福祉理論を基盤とし、「こころとからだのケア」に焦点をあて、心理学及び養護実践学領域の専門知識・技術を学び、人々の生涯を通じた心身の健康の維持を支援する人材の育成を目的とする。
生涯学習システム学部	健康プランニング学科	人々の心身にわたる健康づくりのプランナーとしての経営能力を磨き、感性豊かで視野の広い実践力のある生涯学習支援者の育成を目的とする。
	芸術メディア学科	様々な芸術分野の専門知識・技術を学び、人々がゆとりと潤いのある生活を実現し、より豊かな人生を送るための生涯学習支援者の育成を目的とする。
	学習コーチング学科	学習者の自発的な活動を促し、目標達成を支援するコーチングに関する知識・技術・理論を学び、多様な指導技術を身につけた、未来を担う子どもたちの学習を支援する人材の育成を目的とする。
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	スポーツ教育に関する高い専門知識と実践的技術を学び、生涯スポーツ社会の実現に向けて、競技スポーツ、学校教育、地域社会で活躍できる人間性豊かな人材の育成を目的とする。

○短期大学部（学科ごと）

	学科名	教育研究上の目的
短期大学部	人間総合学科	一般教養に関する広い知識を学とともにビジネス、服飾美術、舞台芸術、メディアデザイン、美術、音楽及びスポーツ科学に関する専門的学芸・技術を学び、地域・社会と協調し主体的に貢献できる人材の育成を目的とする。
	こども学科	一般教育に関する広い知識を学ぶとともに、こどもの理解、こどもを取り巻く環境や社会的課題及び子育て支援に関する専門的学芸・技術を学び、教育・保育等に関わる優れた実践力を有する人材の育成を目的とする。

2.専任教員数

北翔大学・大学院専任教員数（平成22年5月1日現在）

学部・学科、その他の組織			専任教員数 教授	准教授	講師	助教	計	助手
大学院	人間福祉学研究科	人間福祉学専攻	(6)	(4)	0	0	(10)	0
		臨床心理学専攻	(6)	(1)	(2)	0	(9)	1
	計		(12)	(5)	(2)	0	(19)	1
	生涯学習学研究科	生涯学習学専攻	(14)	(3)	0	0	(17)	0
	計		(14)	(3)	0	0	(17)	0
	大学院合計		(26)	(8)	(2)	0	(36)	1
大学	人間福祉学部	地域福祉学科	4	5	5	0	14	0
		医療福祉学科	5	3	3	0	11	0
		福祉心理学科	8	2	2	0	12	0
	人間福祉学部計		17	10	10	0	37	0
	生涯学習システム学部	健康プランニング学科	3	2	0	0	5	0
		芸術メディア学科	7	6	1	0	14	0
		学習コーチング学科	11	2	2	0	15	0
	生涯学習システム学部計		21	10	3	0	34	0
	生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	13	7	1	0	21	0
	生涯スポーツ学部計		13	7	1	0	21	0
	大学計		51	27	14	0	92	0

※大学院専任教員は大学学部教員と併任で合計数には含まない。

北翔大学短期大学部専任教員数（平成22年5月1日現在）

学部・学科、その他の組織		専任教員数 教授	准教授	講師	助教	計	助手
短期大学部	人間総合学科	7	4	1	0	12	0
	こども学科	7	3	3	0	13	0
	短期大学部計	14	7	4	0	25	0

専任教員数合計（平成22年5月1日現在）

学校種	専任教員数 教授	准教授	講師	助教	計	助手
大学院	(26)	(8)	(2)	0	(36)	1
大学	51	27	14	0	92	0
短期大学部	14	7	4	0	25	0
合計	65	34	18	0	117	1

*大学院専任教員は大学学部教員と併任で合計数には含まない。

3.校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

【校地】
一般校舎敷地は82,343.0㎡、運動場敷地は41,311.0㎡、その他の校地面積は4,532.59㎡となっており、校地の計は128,186.59㎡となっています。

【校舎】
一般校舎は15,556㎡、図書館は2,299㎡、管理関係・その他校舎面積は17,234㎡となっており、校舎の計は35,089㎡となっています。

【教室等】
1号棟から8号棟、体育館までの校舎に大教室、中教室、小教室、実験・実習室、演習室、研究室を有しています。実験・実習室は、絵画・彫刻等の美術系実習室、音楽室・合奏室・指導室等の音楽系実習室も整備しています。また、音楽関係では個人用の練習室も整備しています。

【図書館】
総面積は2299.1㎡、閲覧座席数は298席となっています。図書177,731冊、雑誌2,926種、視聴覚資料8,098点を所蔵しています。図書館内には個人学習ゾーンとグループ学習ゾーンを確保して、学生の活用の利便性向上に努めています。

【体育施設】
浅井記念館6,208㎡、第2体育館1,568.9㎡となっています。野外施設として陸上グラウンド、テニスコート、野球グラウンド、多目的グラウンドが整備されています。

【情報関連施設】
情報処理室7室に304台のパソコンを設置しています。また、語学準備室は3室となっており、そのうち第1LL教室の機器はMac及びWindowsが起動可能で、情報処理関係での使用か可能となっております。

【研究施設】
敷地内に北方圏生涯スポーツ研究センター、札幌市中央区に北方圏学術情報センターを有しています。研究活動のほか地域への成果報告や教育成果の発表の場としても利用されています。

図書館

野球グラウンド

北方圏学術情報センター

北方圏生涯スポーツ研究センター

822教室

第1LL教室

北翔大学

4.授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用

【学費等納付金（大学院）】

○人間福祉学研究科（平成22年度入学生適用分）

科目＼納期		前学期 入学手続時	後学期 9月30日	初年度合計
学費	入学金	210,000円	ー円	210,000円
	授業料	305,000円	305,000円	610,000円
	施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
	計	640,000円	430,000円	1,070,000円
その他の経費	学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料（2年分）	2,380円	ー円	2,380円
	同窓会費（終身）	40,000円	ー円	40,000円
	計	42,380円	ー円	42,380円
合計		682,380円	430,000円	1,112,380円

○生涯学習学研究科（平成22年度入学生適用分）

科目＼納期		前学期 入学手続時	後学期 9月30日	初年度合計
学費	入学金	210,000円	ー円	210,000円
	授業料	290,000円	290,000円	580,000円
	施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
	計	625,000円	415,000円	1,040,000円
その他の経費	学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料（2年分）	2,380円	ー円	2,380円
	同窓会費（終身）	40,000円	ー円	40,000円
	計	42,380円	ー円	42,380円
合計		667,380円	415,000円	1,082,380円

【学費等納付金（大学）】

○人間福祉学部（平成22年度入学生適用分）

科目＼納期		前学期 入学手続時	後学期 9月30日	初年度合計
学費	入学金	310,000円	ー円	310,000円
	授業料	440,000円	440,000円	880,000円
	施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
	計	875,000円	565,000円	1,440,000円
その他の経費	自治会費（年額）	5,000円	ー円	5,000円
	学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料（4年分）	4,560円	ー円	4,560円
	同窓会費（終身）	40,000円	ー円	40,000円
	計	49,560円	ー円	49,560円
合計		924,560円	565,000円	1,489,560円

○生涯学習システム学部（平成22年度入学生適用分）

科目＼納期		前学期 入学手続時	後学期 9月30日	初年度合計
学費	入学金	310,000円	ー円	310,000円
	授業料	425,000円	425,000円	850,000円
	施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
	計	860,000円	550,000円	1,410,000円
その他の経費	自治会費（年額）	5,000円	ー円	5,000円
	学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料（4年分）	4,560円	ー円	4,560円
	同窓会費（終身）	40,000円	ー円	40,000円
	計	49,560円	ー円	49,560円
合計		909,560円	550,000円	1,459,560円

○生涯スポーツ学部（平成22年度入学生適用分）

科目＼納期		前学期 入学手続時	後学期 9月30日	初年度合計
学費	入学金	310,000円	ー円	310,000円
	授業料	425,000円	425,000円	850,000円
	施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
	計	860,000円	550,000円	1,410,000円
その他の経費	自治会費（年額）	5,000円	ー円	5,000円
	学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料（4年分）	5,260円	ー円	5,260円
	同窓会費（終身）	40,000円	ー円	40,000円
	計	50,260円	ー円	50,260円
合計		910,260円	550,000円	1,460,260円

【学費等納付金（編入学）】

○人間福祉学部（平成22年度入学生適用分）

科目＼納期		前学期 入学手続時	後学期 9月30日	初年度合計
学費	入学金	240,000円	ー円	240,000円
	授業料	440,000円	440,000円	880,000円
	施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
	計	805,000円	565,000円	1,370,000円
その他の経費	自治会費（年額）	5,000円	ー円	5,000円
	学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料（2年分）	2,380円	ー円	2,380円
	同窓会費（終身）	40,000円	ー円	40,000円
	計	47,380円	ー円	47,380円
合計		852,380円	565,000円	1,417,380円

○生涯学習システム学部（平成22年度入学生適用分）

科目＼納期		前学期 入学手続時	後学期 9月30日	初年度合計
学費	入学金	240,000円	ー円	240,000円
	授業料	425,000円	425,000円	850,000円
	施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
	計	790,000円	550,000円	1,340,000円
その他の経費	自治会費（年額）	5,000円	ー円	5,000円
	学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料（2年分）	2,380円	ー円	2,380円
	同窓会費（終身）	40,000円	ー円	40,000円
	計	47,380円	ー円	47,380円
合計		837,380円	550,000円	1,387,380円

【学費等納付金（短期大学部）】

○人間総合学科（平成22年度入学生適用分）

科目＼納期		前学期 入学手続時	後学期 9月30日	初年度合計
学費	入学金	230,000円	ー円	230,000円
	授業料	375,000円	375,000円	750,000円
	施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
	計	730,000円	500,000円	1,230,000円
その他の経費	自治会費（年額）	5,000円	ー円	5,000円
	学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料（2年分）	2,780円	ー円	2,780円
	同窓会費（終身）	40,000円	ー円	40,000円
	計	44,780円	ー円	47,780円
合計		777,780円	500,000円	1,277,780円

○こども学科（平成22年度入学生適用分）

科目＼納期		前学期 入学手続時	後学期 9月30日	初年度合計
学費	入学金	230,000円	ー円	230,000円
	授業料	410,000円	410,000円	820,000円
	施設設備費	125,000円	125,000円	250,000円
	計	765,000円	535,000円	1,300,000円
その他の経費	自治会費（年額）	5,000円	ー円	5,000円
	学生教育研究災害傷害保険料および学研災付帯賠償責任保険料（2年分）	2,380円	ー円	2,380円
	同窓会費（終身）	40,000円	ー円	40,000円
	計	47,380円	ー円	47,380円
合計		812,380円	535,000円	1,347,380円

※上記の他にも、演習・実習・見学・資格取得などで、別途費用が必要となる場合があります。

Ⅱ.平成22年度の「修学上の情報等」については、本学ホームページ上をご覧ください。

［アクセス方法］

本学ホームページ（http://www.hokusho-u.ac.jp）画面より、赤で○をしている部分「北翔大学について」→「情報の公表」とクリックをしていくと閲覧できます。

Ⅱ.平成22年度の「修学上の情報等」

1.教員組織、各教員が有する学位及び業績
2.入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数
3.授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）
4.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位）
5.学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
6.教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

教職員人事のご案内（平成22年8月31日～12月31日）

■退　職／事務職員（平成22年8月31日付）

学習支援オフィス担当		小　松　洋　介

■異　動／事務職員（平成22年9月1日付）

企画部教育研究支援課	課　長	玉　置　和　彦
エクステンションセンター生涯学習担当	課　長	棟　方　章　子
学習支援オフィス担当	主　査	加　島　希恵子
図書館担当	主　査	北　西　由紀子
エクステンションセンター生涯学習担当		谷　木　竜　平
総務部総務課		末　永　法　子
学習支援オフィス担当		奥　井　千夏子

■異　動／事務職員（平成22年12月15日付）

総務部総務課	主　査	稲　垣　　緑

■退　職／事務職員（平成22年12月31日付）

総務部総務課	末　永　法　子

北翔大学

コラム

本学園の歴史は、ヒト・モノ・コトが
多様に重なり合って築かれてきました。
それら一つひとつを見つめ直し、
次に積み重ねるべき一手のヒントを探ります。

温校知新 since 1939

03：ソフトテニス部［1967］

昭和63年、本学テニスコートにて。

現在、北翔大学ではスポーツ系34団体、文化系20団体のクラブ・サークルが活動中です。その先陣を切った部の一つがソフトテニス部。創部は昭和42（1967）年、本学が札幌から江別へ移転した1年後のことでした。キャンパスにはテニスコートが5面並んでいますが、「私が赴任した昭和50年ごろは、そのうち2面がバレーボール用でした」と、ソフトテニス部顧問の畠山孝子先生は振り返ります。どちらも昭和中期の女学生にとっては人気のスポーツ。特にテニスは、美智子さまの「テニスコートの出会い」もあり、あこがれの存在でした。ただし、硬式テニスをプレーできたのは一部の層のみで、庶民が親しんだのはソフトテニス。「硬式が一般化したのは昭和50年代以降ですね。もちろん、今もソフトテニスは非常に盛んで、高齢になっても楽しめる生涯スポーツとして愛好者が多いんですよ」。

同部は創部当時から強豪チームとして名を馳せ、昭和49年から平成元年にかけては北海道学生テニス大会の団体戦で16連覇を達成。以降も常に上位争いを繰り広げています。では、今と昔で所属する学生の雰囲気に違いはあるのでしょうか。「当時は、体育会系の規律正しさ、先輩後輩の関係がはっきりしていましたね。今の学生たちはとにかく大好きなソフトテニスを楽しんでいる印象です」。また、練習も根性論的要素の強いものから科学的な裏付けのあるものへと変化してきたそうです。「トレーニングの質はどんどん上がっています。でもやっぱり、最終的には自分との戦い。それはいつの時代も変わらないですね」。

毎年、卒業する代の部員から贈られるコーヒーカップ。「毎日カップを変えて、その代の学生たちを思い出しながらコーヒーを飲んでいます」と畠山先生。

変わらないと言えば、畠山先生の赴任以来、同部がシーズン最後に行っているコート納め大会。前衛と後衛の選手を入れ替えて試合を楽しみ、その後は全員で食事をして1年を締めくくっています。同部では、このようなイベントを設けて、常に人の和を大切にしてきました。畠山先生のもとに卒業生から結婚式の案内状や出産報告の手紙などが数多く届くのも、その成果と言えるでしょう。「それと、大会で道内のどこに遠征しても、必ずその土地で暮らしている卒業生が応援に来てくれます。これには本当に感激しますね」。人との出会い、人とのつながりは、同じ目標に向かって切磋琢磨する部活動だからこそ育まれる、かけがえのない財産なのです。

新旧の部旗。「古いほうは私の赴任前からあったのか、その後だったか…」と、畠山先生も思い出せないほど昔から部員たちの活動を見守り続けてきた。

2011年1月～3月の行事予定
2011.1January～3March Event schedule

		共通行事予定		学科別行事予定
1月 January	29日(土) 30日(日)	介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験 （在学生立入禁止／通常講義・体育施設以外）	29日(土)	芸術メディア学科服飾美術コース、 人間総合学科服飾・舞台グループ学外発表会（ポルト）
	31日(月)	後学期講義終了		
2月 February	4日(金) 5日(土)	A日程・外国人留学生・第2期大学院・第3期編入学試験　学内公開（在学生立入禁止） A日程・外国人留学生・第2期大学院・第3期編入学試験（在学生立入禁止）	2日(水)	芸術メディア学科　卒業制作展（～13日ポルト）
	15日(火)	教員採用検査春季対策講座（～20日、22～27日）	10日(木)	人間福祉学研究科　修士論文発表会
	25日(金)	第26回ヨーロッパ研修旅行（～3月3日）	12日(土) 13日(日)	芸術メディア学科音楽コース　卒業演奏会（ポルト）
			13日(日)	札幌国際スキーマラソン大会 （スポーツ教育学科・健康プランニング学科、短期大学部こども学科）
			19日(土)	生涯学習学研究科　修士論文発表会
3月 March	4日(金) 5日(土)	B日程・第4期編入学試験　学内公開（在学生立入禁止） B日程・第4期編入学試験（在学生立入禁止）		
	6日(日)	保護者のための就職ガイダンス （大学3年生、短大1年生 保護者対象）		
	12日(土)	オープンキャンパス		
	18日(金)	学位記授与式（11:00）		

［保護者のための就職ガイダンス開催のご案内］

大学3年生、短大1年生の保護者の方を対象に『保護者のための就職ガイダンス』を下記の日程にて開催します。

経済不況、就職氷河期再来など、労働・雇用を取り巻く環境の厳しさが叫ばれる中で、就職活動準備年のお子様をもつ保護者の方々の日々の不安、疑問等にお応えし、相互の情報交換を行う機会として保護者のための就職ガイダンスを開催します。

実施日　平成23年3月6日（日）13時～15時30分

場　所　北翔大学

内　容　保護者の方お一人おひとりのご意見、疑問点等に、共に考え、お応えするグループ形式で開催します。各グループには就職活動に関わる事項に精通した人材が対応します。

お問い合わせ・お申し込み：
キャリア支援センター　TEL.011-387-3659（直通）

［北翔大学3年次編入学試験のご案内］

第4期 編入学試験	願書受付期間	試験日	合格発表日［予定］
	平成23年2月14日（月）～2月22日（火）必着	3月5日（土）	3月12日（土）

※学科募集人員に達した場合は実施いたしません。
※平成23年度入学生（編入学も含む）が下記に該当する場合は、学費等の一部を入学後の申請により返還いたします。
・本学卒業生および本学卒業生の子息・息女、兄弟姉妹、父母の入学金と同窓会費の半額。
・本学在学生の兄弟姉妹、父母、子息・息女の入学金と同窓会費の半額。
・兄弟姉妹が本学に同時に入学した場合は、一人分を除いた入学金と一人分を除いた同窓会費の半額。
※本学とは北翔大学、北翔大学大学院および北翔大学短期大学部です。（旧名称も含みます。）

お問い合わせ：
アドミッションセンター　TEL.011-387-3906（直通）

［エクステンションセンター後期講座（1月～3月）のご案内］

実力講座	MOS（マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト）試験短期集中対策講座	【Excel2007対策】 2/17 開講　月・火・木・金曜日 全4回 9:30～16:30	【Word 2007対策】 3/7 開講　月～木曜日 全4回 9:30～16:30	メディック・ファーストエイド チャイルドケアプラス・コース 1/29 開講　土・日曜日 全2回 土曜日9:00～17:00 日曜日9:00～15:00
教養講座	裏千家茶道教室（2月コース） 2/8 開講　火曜日 全4回 13:30～15:30	裏千家茶道教室（3月コース） 3/8 開講　火曜日 全4回 13:30～15:30	1DAYセミナー	人と親しくなる方法 ～心くばりのツボ～ 1/26（水）13:00～15:00

お問い合わせ・お申し込み：エクステンションセンター　TEL.011-387-3939（直通）
※講座の詳細については、エクステンションセンターのパンフレットをご覧ください。※ご希望の方には郵送いたしますので、お気軽にお電話ください。

Pal［パル］とは？

Pal = Place 広場 + Amie 友人 + Liberte 自由

本学園新聞、また北翔大学学生会館の愛称にもなっている「Pal（パル）」は、上記のようにフランス語のPlace（広場）、Amie（友人）、Liberte（自由）のイニシャルをつなげたものです。英語で友人を示すPalにも通じており、学生や教職員をはじめ保護者や地域の方々まで、誰からも親しんでいただける学園であることを願って生まれたキャッチフレーズです。

建学の精神

女性の社会的地位の向上を目指し、女性にふさわしい職業的技能と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成

教育の理念

愛と和と英知

合格おめでとうございます

平成23年度
公立学校教員採用候補者選考検査
第2次選考合格者数
42名
※1次合格者84名

北翔大学